弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

文学部・英語・英米文学科
石垣　雅子

作成日　2024年1月18日

1.教育の責務

本学のキリスト教教育を担う立場の宗教主任であり、2023年度より勤務している。それ以前は、22年間同じ学校法人の弘前学院聖愛高等学校で宗教主任・聖書科教諭であった。主に必履修のキリスト教学（宗教学、キリスト教概論・倫理）を担当し講義を行っている。また、毎週木曜日に行われる礼拝の計画実施の責任を負っている。

2023年度担当授業

科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
キリスト教学Ⅰ	1年	講義	前期	キリスト教の基礎知識、旧新約聖書の解説
キリスト教学Ⅱ	3年	講義	後期	創世記と福音書の中の物語を読み考察する
宗教学A	1年	講義	前期	キリスト教・宗教の基礎知識、旧新約聖書の解説
宗教学B	1年	講義	後期	創世記と福音書の中の物語を読み考察する
キリスト教概論	1年	講義	前期	キリスト教・宗教の基礎知識、旧新約聖書の解説
キリスト教倫理	2年	講義	後期	創世記と福音書の中の物語を読み考察する
キリスト教文化	1～4年	講義	後期	聖書・キリスト教とことわざ、日本のキリスト教の歴史

2. 教育の理念

キリスト教学とそれに類する科目を教えている。もともとの専門は聖書学であるが、聖書を表面的あるいは表層的にそのまま読み伝えるのではない読み方をしたいと考えている。故に、聖書テキストに対して現代的解釈や批判的見地を加えた上で説明することを心がけている。また、聖書テキストに差別や貧困、戦争と平和、ジェンダーや多様性などの今日的な社会課題を絡め、学生それぞれが「自分ごと」として捉え考えてもらえるように工夫している。

ユダヤ教、キリスト教、イスラームの関係や歴史など宗教全般の知識も伝達するように努めている。自分が信仰する宗教以外の宗教に敬意を払い尊重することは当然のことであるという基本姿勢である。そのため、キリスト教の信仰を押しつけるとかキリスト教が一番素晴らしい宗教だと語ることはしないよう心がけている。

しかしながら、社会問題化しているカルト宗教の問題に関してはその危うさを教えるようにしている。カルト宗教が危険なのはどのような部分なのか、そして何に気をつけるべきなのかをわかりやすく説明するように努めている。

キリスト教が自分たちから遠いところにある自分たちと関係ない宗教なのではなく、日本また弘前、そして本学にも大きな影響を与えたことをふまえつつ、学生たちがキリスト教や聖書の価値観を獲得し自らの視野を広げてくれることを目指したいと願っている。

3. 教育の方法

必履修で大人数のため講義形式を基本としている。しかし、一方的な説明になりすぎないように「これについてどう考えるか」「あなたの意見はどうですか」などという問いを発問し、グループワークやペアワークで討議させている。その内容については、机間巡視をして尋ねたり、皆の前で発表したりさせている。その問題に対して自分の考えを持つことの大事さを教えたいのが第一のねらいではあるが、他人はどう考えるのかという相違を感じてもらうという願いもある。

毎回レジュメプリントを配布し、学生の理解を助けようと努めている。また、毎回講義の最初の10分程度を前回の復習の時間にあて、前回欠席した者のフォロー及び受講者の理解の再確認をさせようとしている。主な教材は聖書とレジュメプリントであり、聖書は事前に一読し予習してくるよう次回予告を示すようにしている。

説明はなるべくわかりやすく、難解な部分は繰り返したり言い直したりするよう心がけている。キリスト教や聖書独特の表現や言い回しについては用語解説を丁寧に行うようにしている。また、話術としてゆっくりはっきりと話すことも気をつけている。板書をする場合、ポイントや強調点はチョークの色を変えるなどの工夫をしている。

4. 教育の成果

まだ2023年度前期のみの授業評価アンケートであるが、改善点は以下の通りである。学部・全学平均値を下回っているのは、1－3「この授業にあたって、事前学習（予習）・事後学習（復習）に取り組んでいる」であった。最初の講義の際に、わたくしが「予習も復習もいらないから毎回講義に出席すること」と話したことに起因していると推察している。

このアンケート結果をふまえ、後期の開講科目では配布するレジュメプリントに次回の予告を載せ、聖書テキストを必ず一読し、事前に予習してから参加するように促すこととした。

後の設問に関しては、学部・全学平均値を上回るか、もしくは平均値程度の評価であった。今後もそうなるべく努めていきたい。

5. 教育の改善

ICT教材の使用について弱いという自覚がある。パワーポイントや画像・動画など、どのような使い方が自分の講義スタイルに合っているのか検討中である。視覚から入る情報量は多いので、必要に応じて取り入れていきたいと考えている。対面式ではないオンデマンド型の講義のやり方についても検討が必要だと考えている。

また、他の先生方の講義を見せていただき色々参考にしたいと願っている。今年度もそう考えつつ、自分自身の教材研究や礼拝説教の用意・講義準備に時間を要して見学に行く余裕が全くなかった。様々な先生方の講義を見学し、プラスの面を学び自分の講義に生かさせていただきたい。

6. 教育の目標

短期的には、ICT教材の使用により、学生の視覚に訴える部分をとり入れるよう工夫したい。また、自らの講義スタイルの確立がまだまだできていないので、ここ数年でより良い方法を模索し確立したいと考えている。

中長期的には、学生が自分の学ぶ文学・社会福祉・看護に関係づけて考察できるようにしたい。特に、心の深い部分を滋養できるような講義を目指したい。キリスト教学も聖書学も実学ではない。しかし、これを学ぶことにより、高い人権意識や弱くされている者に対する思いやりや配慮ある者たちを育てていきたい。また、自分はどう考えるのかという切り口を学生それぞれに持ってもらいたいと考えている。そのとき、その場面で「自分はどうするのか」「自分はどうすべきか」ということを考えより良く行動できる一人一人に育ってほしいと願っている。

そのためにも、自らが教える「スキル」を磨くだけにとどまらず、自己の人間性を深めることにも注力していきたいと考えている。

【資料】

1. シラバス
2. 授業評価アンケート
3. 講義レジュメプリント
4. 学生提出のレポート、及び定期試験結果